

JTと中津川市、県の森林づくり

3者協定、3年間延長

日本たばこ産業(JT、東京都)と中津川市、県は16日、同市蛭川の「JTの森 中津川」での森林づくり活動について、協定期間を3年間、再度延長した。間伐や里山整備などの活動

を継続しつつ、植栽地の森林公園化を図ったり、里山整備に乗り出す地域の活動支援をしたりして、活動の幅を広げる。

「JTの森 中津川」は中津川市蛭川の市有林約13

・39。3者が協定を締結した2008年以降、「水源の森を守る」をコンセプトに、下刈りや除伐、間伐などを継続的に展開してきた。

地域住民とJT社員による協働での森づくり事業は



協定書を手にする(右から)高井峰好部長、景山徹也支社長、青山節児市長＝中津川市役所

28回を数え、延べ参加人数3800人以上。今回の延長は来月31日で協定期間が満了を迎えるためのもので、4期目の来期は活動期間を5年から3年に変更し、1年ごとの活動をしっかりと振り返りながら、活動の充実を図る。

市役所で協定締結式があり、JT岐阜支社の景山徹也支社長が、県の高井峰好林政部長、中津川市の青山節児市長と協定書を交わした。景山支社長は「育て、守ってきた森を活用するフェーズに入る。取り組みを深化させたい」と述べた。

(富樫一平)